

平成28年4月26日

文化財活用・理解促進戦略プログラム2020の策定について

本年3月末に政府として取りまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」を踏まえ、文化庁として、文化財を貴重な地域・観光資源として活用するために2020年までに取り組むアクションプログラムを策定しましたのでお知らせします。

詳細については、以下の資料を御参照ください。

別紙1 文化財活用・理解促進戦略プログラム2020

別紙2 文化財活用・理解促進戦略プログラム2020（概要）

<担当>

文化庁 文化財部 伝統文化課

課長 大谷 圭介（内線2859）

課長補佐 土田 牧（内線3105）

電話：03-5253-4111（内線2864）

FAX：03-6734-3820

文化財活用・理解促進戦略プログラム 2020

まえがき

全国各地において長く守り伝えられてきた有形、無形の文化財は、地域の誇りであるとともに、観光振興に欠かせない貴重な資源である。については、観光資源としての戦略的投資と観光体験の質の向上による観光収入増を実現し、文化財をコストセンターからプロフィットセンターへと転換させる必要がある。その際、文化財は専門家のためだけのものではなく、一般の人や外国人観光客に「見られて感動し、その価値を知ってもらって初めて真価を発揮するもの」であるという意識改革を現場へ浸透させることが重要である。

こうした問題意識のもと、「文化財活用・理解促進戦略プログラム 2020」を策定し、文化資源の活用・情報発信の強化や修理・美装化によって観光資源としての質の向上を計画的に進める。具体的には、個々の文化財を「点」として保存することから地域の文化財を「面」として一体的に整備・活用するよう発想を転換するとともに、専門家でなければ分からない解説ではなく、誰にとっても分かりやすい解説を整備し、多言語化及び国内外に向けた情報発信を進める。また、修理遅れによる文化財の資産価値の低下・劣悪な外観が散見される現状を打開するため、適切な周期での根本修理に加え、観光資源としての価値を高める美装化にも取り組む。

こうした取組を計画的に進めることによって、文化財を「真に人を引きつけ、一定の時間滞在する価値のある観光資源」として活用していくことを目指す。

2020 年までの目標

- ・文化財単体ではなく地域の文化財を一体とした面的整備や分かりやすい多言語解説の整備などの取組を 1,000 事業程度実施するとともに、日本遺産をはじめ、文化財を中核とする観光拠点を全国 200 拠点程度整備
- ・「日本遺産」を 100 件程度認定
- ・国内全ての世界文化遺産において、世界文化遺産活性化事業の実施を促す
- ・「歴史文化基本構想」を 100 件策定
- ・文化遺産オンラインへの訪問回数 200 万回を達成
- ・2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラム（文化力プロジェクト（仮称））を 20 万件実施

アクションプログラム

I. 世界遺産や日本遺産，文化芸術活動など，地域の文化資源の一体的な整備・活用，国内外に向けた情報発信（解説・多言語化を含む）への支援

【一体的な整備・活用】

- ・地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統をストーリーで表現する「日本遺産」を2020年までに100件程度認定する。さらに，ストーリーを語る上で不可欠な，魅力ある有形・無形の文化財群を，地域が主体となって総合的に整備・活用し，国内外に戦略的に発信するとともに，「日本遺産」のブランド化を推進することにより地域活性化を図る。
- ・多言語によるガイドツアーや文化財保存修理の見学会，保存修理作業の模擬体験プログラム等の企画・情報発信等の取組を支援し，世界文化遺産が所在する地域の活性化，誘客を図る。
- ・地域の文化財の指定・未指定を問わず，その周辺環境も含めた保存・活用を図るための基本的な指針である「歴史文化基本構想」の策定を支援する。
- ・歴史文化基本構想策定地域（観光拠点）の文化財整備等を多重的に支援する。
- ・観光庁と連携し，訪日外国人等の意見を踏まえた，広域又は地域の文化財やその他の観光資源を組み合わせた周遊ルートの構築を支援する。
- ・国土交通省等の関係省庁と連携し，文化財の一体的な整備・活用を検討する。

【分かりやすい解説・多言語化】

- ・日本や地域の歴史・文化に詳しくない観光客でも理解できるような解説板・案内板の作成や，解説・行事の日程等についてインターネット等を活用して情報提供する取組を支援する。
- ・美術館・博物館における参加・体験型の教育プログラム等を支援する。
- ・外国人の意見を踏まえた，解説板等の多言語化や訪日外国人向けの多言語による解説ボランティア等の育成を支援する。

- ・訪日外国人が展示物の本質的な価値をより深く理解できるよう，国立美術館・博物館・劇場における多言語対応を推進する。
- ・多言語対応等に取り組み，訪日外国人による地域の文化芸術活動の鑑賞・体験を実現する。

【新たな用途への活用等】

- ・宿泊施設やユニークベニュー（※）利用に適した文化財等をリストアップし，観光庁と連携してPRする。
 ※ 歴史的建造物や公的空間等，会議・レセプション・イベント等を開催する際に特別感や地域特性を演出できる会場
- ・国宝・重要文化財を会議レセプション等のユニークベニューとして積極的に活用するための設備・施設等を整備する。
- ・文化財をユニークベニューとして活用した文化イベントを積極的に実施する。
- ・美術館・博物館のニーズを踏まえた開館時間の延長を推進する。

【ICTの活用】

- ・文化プログラムの機会を活用し，全国の文化財や文化芸術活動を取りまとめて発信する，2020年に向けた文化芸術情報に関するポータルサイトを構築する。
- ・文化遺産オンラインを充実させる（英訳，モバイルサイト整備等）。
- ・マンガ・アニメ・ゲームなどの作品名や所在情報等が把握できるデータベースを多言語化するとともに，所蔵館や作品ゆかりの地を訪れることができるよう，国内各地の関係機関等の情報を発信する。
- ・映画の撮影促進と創造活動の活性化を図るため，日本各地のロケ地情報を集約し，各地域のフィルムコミッションを映像制作関係者のみならず，映像ファンに向けても国内外へ紹介・発信する。

II. 国宝・重要文化財建造物等の適切な修理周期の実現と、次の修理までの間も美しく保つ美装化等，投資リターンを見据えた文化財への戦略的な投資

【修理・美装化】

- ・ 国宝・重要文化財建造物等の資産価値を将来にわたり維持していく適切な修理周期を実現する。
- ・ 次の修理までの間も建造物等を美しく保ち，観光資源としての価値を高める，美装化を積極的に実施する。
- ・ 修理現場の公開（修理観光）や，修理の機会をとらえた解説整備を推進する。
- ・ 重要文化財建造物等の防火・防犯設備設置，耐震診断，耐震化工事等を実施し，安全の確保を図る。

III 人材・体制

- ・ 地方自治体等の文化財活用事業の支援に際し，観光客の増加や地域の活性化につながる，文化財群を一体的に活用した取組に対する優先支援枠を設定するとともに，観光客数などを指標に加える。
- ・ 学芸員や文化財担当者等に対する文化財を活用した観光振興に関する講座を新設する。
- ・ 質の高い Heritage Manager（※）の養成と配置に資する取組を行い，良質な管理を伴う文化財の持続的活用を行える体制づくりを支援する。
※ 良質な管理を伴う文化財の持続的活用を行える人材
- ・ 観光庁と連携し，地方自治体等が行うマーケティング等を支援する。
- ・ 文化プログラムの機会を活用し，観光客等を引きつけるよう，地域の文化財に付加価値を与え，それをPRする芸術祭等のアートイベントや公演等を実施するとともに，そのイベントを企画・立案するアートプロデューサーを活用・育成する。

昨年度末にとりまとめられた「明日の日本を支える観光ビジョン」を踏まえて、
文化財を貴重な地域・観光資源として活用するために2020年までに取り組むアクションプログラムを策定しました。

目指すべき将来像

○文化財を中核とする観光拠点の整備

大内宿の茅葺き民家群再生（福島県）

- ・地域の文化財の一体的整備を計画的に行い、観光中心の産業構造へ転換
- ・観光客数は20年間で約100万人増加
- ・収益が修理につながる循環型の文化財保存・活用事業の継続，地元技術者の育成

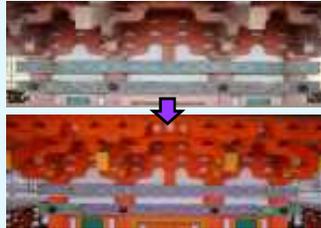


○投資リターンを見据えた文化財修理・整備の拡充と美装化

姫路城天守の大規模改修

美装化

- ・総事業費30億円
- ・観覧料収入
2.9億円（H26）
→ 18.7億円（H27）
- ・修理中もガイドス施設を設置



○分かりやすい解説と多言語対応

日光東照宮新宝物館

- ・東照宮の歴史や徳川家康の生涯をビデオ等を用いて分かりやすく解説
- ・全ての展示品は、日本の歴史を知らない外国人でも理解できる英語解説がされている



○歴史的建造物の活用促進

西日本工業倶楽部会館

- ・国指定重要文化財を結婚式場等に活用



現状・課題及び今後の対応

現状・課題

- 個々の文化財を点として保存
- 日本人でも理解が困難な、専門家にしか分からない解説
- 修理遅れによる資産価値の低下・劣悪な外観

プログラムのポイント



2020年までに、以下の取組を**1000事業**程度実施し、日本遺産をはじめ、**文化財を中核とする観光拠点を全国200拠点**程度整備。

○支援制度の見直し

- ・支援に当たり観光客数等を指標に追加
- ・地域の文化財を一体的に整備・支援
- ・適切な修理周期による修理・整備
- ・観光資源としての価値を高める美装化への支援
- ・修理現場の公開（修理観光）や、修理の機会をとらえた解説整備への支援 等

○観光コンテンツとしての質向上

- ・分かりやすい解説の充実・多言語化
- ・宿泊施設やユニークベニュー等への観光活用を促進
- ・学芸員や文化財保護担当者等に対する文化財を活用した観光振興に関する講座の新設，質の高いHeritage Manager等の養成と配置
- ・全国の文化財等の情報を発信するポータルサイトの構築
- ・美術館や博物館における参加・体験型教育プログラム等への支援，ニーズを踏まえた開館時間の延長
- ・文化プログラムをはじめとする文化芸術活動との連携 等

○文化財を

ユニークベニュー とした文化イベント

姫路城での オペラ上演

